

平成維新東京次期代表に下記の方が立候補されました

7月19日(日)に、平成維新東京第4回総会が開かれ、次期(第4期)代表の選出が行われます。次期代表に立候補者された方は「治田桂四郎氏」と「山本竜司氏」のお2人です。各立候補者から「立候補趣意書」が提出されましたので、以下に掲載させていただきます。

治田桂四郎氏

私は、1998年度の平成維新を実現する都民の会の代表に次の考えで、立候補致します。

1. 他に代表をされる方がおられなさそうであること(だと自分になれるからではなく、むしろ若い人でやって頂ける人をほしく思います。)
2. 今年度も具体的には、長妻昭氏の次期衆議院議員選挙への挑戦に最大の支援をしていきたい。(個人的にも支援し、会としても支援してもらいたい)
3. 市民による政治実現に努力したい。具体的には、引き続き大前氏からも情報をキャッチしながら、実際には、菅直人主導の民主党を応援したい。それが、世直しの一歩の近道と考えている。民主党に限らず、いい人は、会で推薦し首長や議員にしていきたい。それにより、私たちの望む国にしていきたい。
4. 情報公開に注力する。
5. 上記の活動をしながら、会員増を図る。
6. 大前氏の残した平成維新憲章や誓いの趣旨は、大切にしたい。大前さんを特別扱いは、しない。これに代わるものを会独自で創りたい。しかし、個人的には、尊敬している。会の名前から平成維新がなくてもいいと考えている。どちらといえば、取りたいと思っている。例えば、生活者主権都民の会がいいと思っている。

<追記> 会則改定の提案 提案理由

1. 平成維新という用語が大前研一氏と関わりが深く、会の活動が、大前研一の直接の指導の下に行われているとの誤解を受ける。この事は、会にも大前研一氏にもマイナス。
2. 平成維新の持つ響きが、右翼的に感じる人々がいる。
3. 実際に知らないうちに大前研一氏に依存してはいないかとの反省がある。本来、何事も自分で自分達で考え、行動するのが、当然である。真に自立するために。

以上の理由で下記の会則の改定を提案する。

1. 第一章第2条(名称)本会は、生活者主権都民の会(通称:都民の会)と称し、その活動拠点を東京に置く。(代表の住所は、東京、千葉、埼玉、神奈川でも可)。
2. 第二章第3条(目的)政治の主権を官僚から生活者に取り戻す。そのための政策提言や行動を目的とする。

山本竜司氏

私の公約はただ一つ。「平成維新を実現する都民の会」の名前も性格も、一切変えないことです。特にこの時期に、会の名前を変えるなど言語道断、「たわけ」に等しい愚行です。

まず、皆さんに考えていただきたいのは、来年の春には都知事選が有るということです。この会が名前を変えた場合と変えなかった場合とで、どのような影響が出るかを、良く考えていただきたい。今はまだ、大前さんが立候補するかどうか分かりませんが、立候補した場合のことを考えてください。名前を変えていなければ、誰にはばかることもなく大前さんの応援をすることができますし、またこの会はそのために存在しているような会であったはずですが、しかしその時、会の名前を変えてしまっていた場合、いったいどのツラさげて大前さんの選挙事務所に顔を出すことができるでしょうか。

この会は、政治を指向している会のはずです。政治を指向しているかぎりタイミングを誤らないことが重要です。財政改革が必要であるとは誰でも言えますが、タイミングを誤って不景気を長引かせ、国民を苦しませてしまつては本末転倒も甚だしいことです。

今、我々はうろたえるべきではありません。変えることによって失ってしまうことは、過去に流した汗だけではありません。将来の行動を萎縮させてしまうおそれすら有るのです。

私の公約はただ一つ。「平成維新を実現する都民の会」の名前も性格も、一切変えないことです。

<追記>

ところで、私が代表になった後、少なくとも半年は会の安定に尽力することになるでしょう。また、それが代表としての重要な責務であると考えています。しかし、それだけが原因という訳ではありませんが、当会の対外的な活動が一時停滞ぎみになってしまうものと思われまふ。そこで、新しい代表のもと、「平成維新を実現する都民の会」として、新たな活動のアイディアをお持ちの方、是非、手をあげてください。一緒にこの会を、堅実で意義ある活動のできる会に育て上げていきましょう。

先が見えない世の中であるからこそ、表層的な魅力に感わされて動いてはなりません。初心、忘るべからず。

一代表選挙不在者投票は P.12 をご利用下さいー